

富山県立泊高等学校



悠遠の光

「恵み豊けき越路の要」で始まる本校校歌。本校は、昭和15年に創立された町立泊実科高等女学校を濫觴としている。昭和23年「富山県立泊高等学校」と改称、全日制普通科の設置後、定時制普通科、家政科、商業科と増設されたが、幾度の変遷を経て、現在は全日制普通科単独校に。

平成17年から募集を開始した観光ビジネスコース、その地域をフィールドにした学びは、平成11年から朝日町立朝日中学校とともに取り組んだ中高連携推進事業と相まって、泊高校の特色の一つとなっている。

「ともに世紀の暁鐘撞かむ」…令和2年、本校はその誕生から80年の星霜を重ねた。校歌の一節にある「暁鐘」とは、夜明けを知らせる鐘のこと。今、夜明けを知らせる鐘の音が、新しい時代の到来を告げている。この学び舎から校歌が聴かれなくなることは、誠に淋しい限りである。しかし、これまで培われてきた伝統と地域に根ざした教育は、新高校においても着実に引き継がれていくものと確信する。

富山県立水橋高等学校



スピリットの継承

本校は、富山県置県100年にあたる昭和58年4月7日、県内唯一の体育コースを有する普通科高校として開校しました。「心を極め 道を拓く」の校訓のもと、「考える人間」「たくましい人間」「あたたかい人間」の育成を教育方針として、生徒と教職員が心をついに、豊かな学校生活と輝かしい校風・伝統を築いてきました。生徒のほとんどが4年制大学等への進学を希望し、学習と部活動の両立を果たしています。また、体育コースでは、競技力の向上を目指し鍛錬した結果、インターハイ、国体等の全国大会において、優勝や上位入賞などの輝かしい成果を挙げています。さらにオリンピックなどの国際大会に出場する選手もおり、彼らの活躍や生徒たちが持つスポーツマンとしての元気の良さ、礼儀正しさなどが、活力に満ちたさわやかな校風を築く一助となっています。

令和4年3月、水橋高校は39年の歴史に幕を下ろし、富山北部高校へ伝統のたすきを繋ぎます。水橋高校が作り上げてきた「水橋スピリット」を「富山北部スピリット」として昇華させ、未来へ継承されていくことを期待します。

富山県立高岡西高等学校



五つの時代を歩んで

本校は明治40年に富山県立高岡高等女学校として設立されました。戦後の学制改革により、昭和23年4月に普通科の女子単独校として高岡女子高等学校となり、同年9月には、県下の高等学校の統廃合と学区制の実施により、普通科と商業科を設置する男女共学校として高岡西部高等学校となりました。その後、家庭科の設置、普通科の募集停止や復活を経て、昭和32年に普通科と被服科（のちに家政科に改称）からなる高岡女子高等学校となり、昭和42年に衛生看護科が設置（平成13年募集停止）、平成8年には家政科が募集停止となり、普通科に人間福祉コースが導入されました。そして、平成9年、男女共学化に伴い現在の高岡西高等学校と改称しました。以来、高岡女子高等学校から受け継いだ校訓「聴く豊かに たくましく」のもと、学習活動、学校行事、部活動、ボランティア活動等に取り組んできましたが、高岡高等学校との再編統合により、令和3年度末に115年の歴史に幕を下ろすことになりました。